

大阪 歯科 保険医新聞

「保険でよい歯科」の声広がる

大阪連絡会 健診や市民講座通じ賛同者増

8020運動発祥の地に学ぶ

歯科医療従事者や市民団体、府民でつくる「保険でよい歯科医療を大阪連絡会」が発足1周年を迎え、12日に第2回総会と市民講座をM&Dホールで開いた。協会創立40周年企画の一環で、歯科医師や住民ら93人が参加した。意見書採択や署名、歯の健康教室を通じて「いつまでも、どこでも、誰でも、お金の心配をせずに受診できる歯科医療」の実現を目指す11年度の方針を確めた。総会に先立ち、住民対象の歯みがき教室を開催した。

協会理事長で同会代表世話人の小澤力氏は、1年間で参加団体・個人が26増えたことを紹介。全国では被災した宮城・福島両県を中心に保険でよい歯科医療の意見書が広がっているとし、大阪でも取り組みを強化していきたいと述べた。政府が社会保障を改善する際、歯科医療から切り捨ててきたと指摘した小澤氏は、「食へることは人として当たり前の権利であり、健康の源。『保険でよい歯科』運動に多くの方が参加し、一回りも二回りも大きくしてほしい」と訴えた。



8020運動のモデルとなった歯科保健制度について話す山田兼三氏＝12日、M&Dホール

市民講座では、8020運動のモデルとなった兵庫県南光町（現・佐用町）の山田兼三元町長が「歯を大切に健康が花開いた町」をテーマに講演した。

1980年から25年にわたって町長を務めた山田氏は、南光町を無歯科医地域から全国でも先駆的な歯科保健活動に取り組み自治体に変えた。山田氏は、同和行政を廃止し、憲法25条に基づいた住民の暮らしを守る予算に転換した町政運営を紹介した。また、町民や職員との対話を重視し、要望に応じて歯科保健センターを設立。生涯を通じて歯科健診体制を整備するなど、「センターを中心に町ぐるみで予防を重視した健康づくりを推進した」と語った。

町民との議論のなかで休耕田を活用した「ひまわり祭り」が観光名所となり、特産品も生み出すなど町おこしになった経験を話しながら、「住民参加の民主的な町づくり

が、健康づくりにも、町の発展にもつながった」と振り返った。その上で、大阪府政について「議論することなく、知事と議会が意のままに強行する橋下府政は異常だ」と批判した。

災害時の体制について言及し、被災地では「小泉『構造改革』で役所の職員が減少し、支援の受け入れが困難になっている」と指摘。2年前に大洪水に見舞われた南光町では、歯科保健センターが支援活動の拠点になったことを示し、役所の職員体制を強化する必要性

を訴えた。参加者から社会保障重視で「財政は悪化しなかつたのか」と問われた山田氏は、「ムダな大型公共事業を見直し住民参加を貫けば、破たんしない。25年間取り組んできた実感だ」と語った。

総会では、大阪技工士連絡会の根津雅才氏が1年間の活動と11年度方針、世話人・事務局団体の敬告文が読み上げられた。大阪府歯科保険医協会が主催する「保険でよい歯科」署名活動の協賛を呼びかけている。保団連が1月に発表した「歯科医療に関する1万人市民アンケート」で

貧困や格差が深刻化し、経済的理由で歯科治療を受けられない患者が急増するなか、協会は誰もがお金の心配なく受診できるように「保険でよい歯科医療」の実現を目指して請願署名に取り組んでいる。請願項目は①窓口負担の大幅軽減②保険のきく範囲の拡大③の二つ。署名への会員の協力を呼びかけている。

「保険でよい歯科」署名

は、4割弱の市民が治療せずに放置している実態が明らかになった。窓口負担が高いと感じている人が過半数を超え、受診を妨げる要因になっている。

また、東日本大震災では、誤嚥性肺炎を予防するために避難者の口腔ケアが重視されている。全身の健康を保つためにも、安心して歯科受診できる制度を早期に実現することが求められている。

国会議員に要請した。要請内容は、①被災者医療の確保②消費税によらない復興財源③患者負担の大幅軽減④原発依存からの転換——など。

協会からは、下井戸昭介副理事長、森啓理事、古田光行・宮本岳志の両監事、事務局が参加した。大阪選出の衆・参国会

議員に対し、7月以降被災者が受診する際、一部負担金免除証明書が必要になることについて「証明書の交付手続きが困難な場合も予想される。現行の取り扱いを続けてほしい」と要請した。また、原発問題での総会決議を示しながら、平和をないがしろにする原発に依存したエネルギー政策

論ずる場をつくっていかねばならない」と脱原発にむけて世論づくりの必要性を強調した。（3面に要請議員一覧）

国会行動 被災者医療の確保など要請

協会・保団連は9日、東日本大震災から一日も早い復旧・復興をめざした第2次補正予算の速やかな成立などを求めて、

国会議員に要請した。要請内容は、①被災者医療の確保②消費税によらない復興財源③患者負担の大幅軽減④原発依存からの転換——など。

協会からは、下井戸昭介副理事長、森啓理事、古田光行・宮本岳志の両監事、事務局が参加した。大阪選出の衆・参国会

議員に対し、7月以降被災者が受診する際、一部負担金免除証明書が必要になることについて「証明書の交付手続きが困難な場合も予想される。現行の取り扱いを続けてほしい」と要請した。また、原発問題での総会決議を示しながら、平和をないがしろにする原発に依存したエネルギー政策

論ずる場をつくっていかねばならない」と脱原発にむけて世論づくりの必要性を強調した。（3面に要請議員一覧）

論ずる場をつくっていかねばならない」と脱原発にむけて世論づくりの必要性を強調した。（3面に要請議員一覧）

子どもにアドバイス



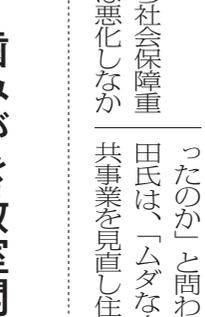
歯みがきの練習をする親子＝12日、保険医協同組合会館

市民講座の前に開いた歯みがき教室では、歯科衛生士6人が出席し、参加した子どもやお年寄りら23人に「正しい歯のみがき方」を指導した。チラシを見て訪れた会員の女性は、「マンツーマンで教えてくれ、自分のみがき方の悪いところが分かって良かった」。小学2年の男の子は、「今日の夜からきちんとみがける」と笑顔で話していた。

市民講座の前には、歯みがき教室では、歯科衛生士6人が出席し、参加した子どもやお年寄りら23人に「正しい歯のみがき方」を指導した。チラシを見て訪れた会員の女性は、「マンツーマンで教えてくれ、自分のみがき方の悪いところが分かって良かった」。小学2年の男の子は、「今日の夜からきちんとみがける」と笑顔で話していた。

市民講座の前には、歯みがき教室では、歯科衛生士6人が出席し、参加した子どもやお年寄りら23人に「正しい歯のみがき方」を指導した。チラシを見て訪れた会員の女性は、「マンツーマンで教えてくれ、自分のみがき方の悪いところが分かって良かった」。小学2年の男の子は、「今日の夜からきちんとみがける」と笑顔で話していた。

歯みがき教室開く



歯みがきの練習をする親子＝12日、保険医協同組合会館

市民講座の前には、歯みがき教室では、歯科衛生士6人が出席し、参加した子どもやお年寄りら23人に「正しい歯のみがき方」を指導した。チラシを見て訪れた会員の女性は、「マンツーマンで教えてくれ、自分のみがき方の悪いところが分かって良かった」。小学2年の男の子は、「今日の夜からきちんとみがける」と笑顔で話していた。

市民講座の前には、歯みがき教室では、歯科衛生士6人が出席し、参加した子どもやお年寄りら23人に「正しい歯のみがき方」を指導した。チラシを見て訪れた会員の女性は、「マンツーマンで教えてくれ、自分のみがき方の悪いところが分かって良かった」。小学2年の男の子は、「今日の夜からきちんとみがける」と笑顔で話していた。

市民講座の前には、歯みがき教室では、歯科衛生士6人が出席し、参加した子どもやお年寄りら23人に「正しい歯のみがき方」を指導した。チラシを見て訪れた会員の女性は、「マンツーマンで教えてくれ、自分のみがき方の悪いところが分かって良かった」。小学2年の男の子は、「今日の夜からきちんとみがける」と笑顔で話していた。

歯界

日本列島の一部を飛行機で上空から鳥瞰する機会が

紙面へのご意見や感想、投稿記事などを新聞部までお寄せください。紙面に掲載させていただいた場合は、図書カード3千円分を進呈いたします。（郵送やファクスで、協会新聞部までお寄せください）